

30年9月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 9月1日～ 30年9月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
仕入 動向	国産材製材品	14.3	7.1	△ 14.3
	外材製材品	△ 14.3	21.4	0.0
	構造用集成材	8.3	16.7	8.3
消費 動向	国産材製材品	7.1	7.1	0.0
	外材製材品	0.0	14.3	0.0
	構造用集成材	25.0	8.3	8.3
在庫 動向	国産材製材品	14.3	0.0	0.0
	外材製材品	△ 21.4	△ 7.1	△ 14.3
	構造用集成材	△ 8.3	△ 8.3	△ 8.3

・国産材製材品の仕入動向は9月、10月の増加から11月は減少に。外材製材品は9月の減少から10月は増加、11月は横ばいに。構造用集成材は3カ月連続増加。

・国産材製材品の消費動向は9月、10月の増加から11月は横ばいに。外材製材品は9月の横ばいから10月は増加、11月は再び横ばいに。構造用集成材は3カ月連続増加。

・国産材製材品の在庫動向は9月の増加から10月、11月は横ばいに。外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
受注	33.3	33.3	8.3
加工	33.3	33.3	8.3
受注残	0.0	0.0	△ 8.3

・プレカット工場の受注、加工動向は3カ月連続増加。受注残は9月、10月の横ばいから11月は減少に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入、消費、在庫動向は国産材、外材製品とも総じて低調。
・海外からの仕入をこの時期の増やしており、入港も順調に入っていることから外材製品、構造用集成材はやや増加。国産材製品は安定した消費であるが、外材製品、構造用集成材は時期的な部分でやや増加。外材製品、構造用集成材ともいつものように少し増やしているが、それほどでないため在庫は減。

(受注動向)

・総じて低調に推移。
・当月から受注が増えてくると思っていたが、そうでもなかった。翌月以降に期待。